# 近代の文化が香るまち・駒場

## ～駒場の歴史的、文化的施設を楽しむ～

目黒区は、「都心に近い住宅地」、「おしゃれなまち」といった印象がありますが、地域の中に溶け込んだ歴史的、文化的施設も魅力の一つです。目黒区北部の駒場地区には目黒区立駒場公園をランドマークに、旧前田家本邸、日本近代文学館、日本民藝館、東京大学駒場博物館といった日本の近代文化に縁が深い施設が存在します。今回はこれら施設を紹介します。

旧前田家本邸和館から庭を望む。季節ごとのさまざまな姿を見せ、風情を感じさせる

## 近代の文化が香る、駒場の施設

### 旧前田家本邸

目黒区の北部に位置する駒場地区には、明治11年以後、駒場農学校（後の東京帝国大学農学部）があり、日本の近代農業に輝かしい業績を残してきました。その後、大正15年に、農学校の敷地4万坪及び代々木演習林敷地1万1543坪は、旧加賀藩主前田本家第16代当主前田利為（としなり）侯爵の本郷邸の敷地1万2606坪余と交換されました。前田利為侯爵は移転した駒場の約1万坪の敷地に、地上3階地下1階建ての洋館と、これを渡り廊下で結んだ2階建ての和館を相次いで竣工させました。

洋館は昭和4年に欧州建築の粋を集めて建築され、当時の駒場の田園の野趣にあわせ、イギリスのチューダー様式（ゴシック様式を簡略化したもの）が取り入れられています。また、建物には化粧レンガやタイル張りが施され、館内の各室には暖炉やシャンデリアが設けられるなど、当時の華麗な侯爵家の生活をしのばせます。

和館は書院造が特徴の建物で昭和5年に竣工しました。奥庭は自然の巨木を生かし、名石があしらわれ、芝生の広場も設けられています。前田侯爵はロンドン駐在武官であったことから、外国人客接待用に建てたとも言われています。

**日本近代文学館**

平成28年９月24日から11月26日まで展覧会「漱石－絵はがきの小宇宙／川端文学のヒロインたち」を開催

**旧前田家本邸洋館**

平成30年９月末（予定）まで休館

**旧前田家本邸和館**

**日本民藝館**

平成28年９月１日から11月23日まで特別展「柳宗悦・蒐集の軌跡－日本の工芸を中心に－」を開催。（「信と美」を追求し続けた柳宗悦の蒐集の軌跡を知ることができる。）平成28年12月11日から23日まで「平成28年度 日本民藝館展 －新作工藝公募展－」を予定

**東京大学駒場博物館**

平年28年10月15日から12月４日まで展覧会「東京大学コレクション『マザリナード集成』：十七世紀フランスのフロンドの乱とメディア」を開催

当時、前田侯爵邸は東洋一の邸宅と称せられました。また、和洋館並列型住宅は当時の華族等邸宅の特徴の一つですが、洋館を接客空間も含んだ生活の場とし、和館を迎賓や祭事の空間とする形式は全国的にも残存例が少なく、歴史的にも貴重な建物となっています。

前田利為が亡くなった後、一時中島飛行機本社として使用され、終戦後は連合国軍が接収し、連合軍最高司令官などの官邸として使用されました。接収解除後、昭和42年に東京都立駒場公園として開園、昭和50年に公園は目黒区に移管され現在に至っています。

平成25年には旧前田家本邸８棟（洋館、和館、渡廊下ほか）及び宅地が国の重要文化財（建造物）に指定され、駒場公園全体（日本近代文学館を除く）が文化財指定範囲となっています。

現在、和館の１階広間は無料休憩所になっており、重厚な床の間、違い棚、付書院、欄間の透し彫などを備えた美しいつくりを、昔のままに見ることができます。また、縁側からは、流れのある池、芝や石の配置が調和した庭園が望め、当時の邸宅の雰囲気を感じることができます。

また、和館などの建物だけではなく、公園全体が見どころとなっています。大名時代の名残が感じられる３メートルを超える石灯籠、見るものを圧倒するクスノキの巨木や野鳥のさえずりなど、時間をかけての園内散策がお勧めです。

洋館は、保存整備工事のため平成30年９月末（予定）まで休館しています。復原、整備後の開館が待ち望まれます。

## 日本近代文学館

明治以降、日本の近代文学は、海外の新しい思潮や日本の古くからの伝統がせめぎ合う中、関東大震災や戦禍、言論弾圧といった数々の苦難を乗り越える中で発展しました。そして、戦後の混乱や経済成長の中で、日本の近代文学の歩みを示す文学資料の散逸を憂えた高見順や小田切進ら有志の文学者や研究者が、文学資料を収集・保存する施設の必要性を広く訴え、昭和38年に財団法人日本近代文学館が発足しました。

その後、この動きは大きな反響を呼び、多くの人から資料の寄贈や建設資金の寄付など支援を受け、昭和42年、

駒場公園内に日本初の近代文学総合資料館として開館し、文学資料の収集や保存、公開と文芸・文化の普及・発展のための活動が行われています。

館内には、図書や雑誌を中心に、数々の名作原稿も含め120万点もの資料が収蔵されています。これらは閲覧室や展示室で書籍や電子媒体として公開され、日本の近代文学に関する歴史を知ることができます。

その他、展覧会、各種講座や講演会も行われており、近代文学を築き上げてきた作家や作品の数々と出会えるのもこの館の楽しみの一つです。また、館内には文学カフェがあり、文豪や文学作品などにちなんだユニークなメニューを提供しています。一日中、文学三昧を楽しみたい方にお勧めの施設です。

## 日本民藝館

日本民藝館は、思想家の柳宗悦らによって企画され、「民藝」という新しい美の概念の普及と「美の生活化」を目指す民藝運動の本拠として昭和11年に開設しました。

館内には、朝鮮時代の陶磁器・木工・絵画、丹波・唐津・伊万里・瀬戸の日本古陶磁、東北地方の被衣（かつぎ）や刺子衣裳など、柳宗悦の審美眼を通して集められた、日本及び諸外国の新古諸工芸品約1万7000点が所蔵されており、質・量ともに国内外で高い評価を受けています。また、民藝運動に参加したバーナード・リーチ、濱田庄司、河井寛次郎、芹沢銈介、棟方志功ら工芸作家の作品も収蔵されています。

このように、館内の所蔵品は、民藝運動の先駆者、柳宗悦らの功績を感じることができます。

昭和11年に竣工した本館（登録有形文化財）には、和風意匠を基調に洋風が随所に取り入れられています。館内は懐かしい木の香りで満たされていて、古今東西の諸工芸品との調和が見事です。

本館の道路向かいに建つ西館は、栃木県から移築した石屋根の長屋門と付設した母屋からなっており、母屋は本館と同じく柳宗悦本人が設計しました。

## 東京大学駒場博物館

東京大学駒場キャンパスにある駒場博物館は、美術博物館と自然科学博物館の2館で構成された博物館です。

駒場美術博物館では、大学の施設らしい広いテーマを取り扱った展覧会、関連企画の講演会や公開シンポジウム、学部の教員と展覧会関係者によるギャラリートークなどが行われています。また、駒場キャンパス内で展開される多様な研究についても、訪れた人にわかりやすく情報発信され、気軽に楽しめるようになっています。

所蔵資料も貴重なものが多く、東洋の美術資料、梅原龍三郎氏寄贈のコプト織、中南米とアジアの考古学資料、旧制第一高等学校関連資料などがあり、その中には橋本雅邦、下村観山など著名な画家の作品が含まれています。

一方、自然科学博物館は、旧制第一高等学校時代から引き継がれた、西洋科学や工学の導入期に用いられた実験器具、計測器具、機械などの教育標本をはじめ、鉱物、岩石、化石、動・植物（蝶、キノコ中心）など、1万点を超える標本資料を所蔵しています。

## 四季を通じて楽しめる駒場地区

日本の近代文化に縁が深い施設が集まる駒場地区。今回紹介した施設の他にも魅力的な場所が数多くありますが、まずは、この4施設を訪れ、文化に触れてみてはいかがでしょうか。

また、駒場公園には豊かな自然が残されており、春の桜、夏の深緑、秋の紅葉、冬の雪景色など、四季折々の風情を楽しむことができます。

# 目黒区と金沢市、
## 友好交流都市協定に向けての覚書を締結

平成28年10月11日に目黒区と石川県金沢市は友好交流都市協定に向けての覚書を締結しました。旧加賀藩第16代当主の前田利為が邸宅（旧前田家本邸）を駒場に建設するなど、金沢市と歴史的つながりが深いことから、目黒区は両都市間の友好推進及び魅力と活力にあふれたまちづくりをともに進めることを目的として、友好交流都市協定締結に向け、防災、教育、文化、スポーツ、観光、経済など両都市間の交流を進めていきます。

前田家の縁が二つの都市をつないだ